

統計資料の利用者は急増している

最近統計資料の利用価値が一般に広く理解され、今や政治、経済、教育文化などの各方面にわたって大きな貢献をなしており、その価値は日増しに増大している。これは社会が発展し、科学が進歩するに従つて、私たちの経済生活も複雑多岐をきわめ、そのテンポも非常に速くかつ高度になつてきたからである。この傾向は、県における統計資料の購読申込みや閲覧状況を見ても分る。すなわち昨年一年間における統計資料の閲覧件数だけでも実に607件(庁内より337件、庁外より270件)にのぼり、そのほかの統計図書も購読申込みを加えると相当なものになる。閲覧関係だけでも1人専属の職員がその応接や整理にかかり切りの状態である。これらの閲覧者は、官公庁をはじめ学校、会社、団体からのものが大部分で、特に目立っているのは、電気機具や菓子類の製造会社や新聞社から資料閲覧や照会が非常に多くなつたことである。また中学生や高校生、大学生などの社会科学研究のためのものも少くない。

これは現在の混沌たる経済事情の中では、どうしても経済活動の範囲が広くなり、経済循環の速度が非常に早くなつたので、どうしても正確な統計数字が必要となるわけである。単なる山勘やウソのデッチ上げなどの場当たり式では、現在の激しい経済競争の中で到底立ち代かきない。そのために近代的な企業経営を行うためには、科学的な統計資料が必要で、統計を無視しては企業の合理化とその正常な発展を期することができない。企業体としては、その工場の生産計画を立てたり、あるいは能率の向上を図つたり、製品の普及状況を掌握しなければ

ならないのである。また経営者としては経営内容については精密な計算と研究が必要である。特にオートメーション時代、あるいは電子計算器の時代といわれる今日においては、あくまでも科学的、合理的判断によつて物事を処理しなければならない。このような観点に立てば、私たちの社会生活や経済生活のパロメーターはすべて統計によらなければならないのである。すなわち毎日の新聞や毎月の雑誌を見ても、統計数字の入つた記事が相当盛られている。また婦人会の生活改善の話や学校生徒の社会科学研究の中にも必ず統計的資料が必要なのである。

最近新聞社をはじめ、各種の会社、団体などが、競つて調査統計事業の拡充強化を計り、今では立派な統計書まで発行している。地方公共団体の統計図書などは全く顔負けする有様である。そもそも日本の統計機構は、官庁統計を中心に発達したものであるが、将来は民間の統計機構が整備され、大きな発展が見られるものと思う。これは、ややもすれば暗い影を投げているといわれるわが国の統計界に明るい光明を与えるものといえるだろう。

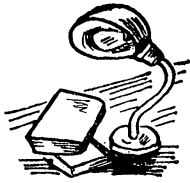
私たちは、二十世紀の現代人として常に統計的感覚を養つて、毎日の生活を計画化して少しの無駄もないように心がける必要がある。そしてこの世の中からウソやゴマカシを追放して、明るい平和な人間生活を営みたいものである。特に私たち統計人は統計のもつ重要使命の重大さをよく認識して、常に修養と研究に努め、統計活動を通じて郷土の繁栄と発展のために寄与したいものである。

(野上生)

資料閲覧件数 (昭和30年)

	庁内					庁外					総数
	農業基本調査	農業表式調査	人口	その他	計	農業基本調査	農業表式調査	人口	その他	計	
1月	5	6	9	5	25	8	2	4	6	20	45
2月	4	2	7	15	28	3	2	11	14	30	58
3月	7	7	7	19	40	2	1	2	2	7	47
4月	6	8	4	8	26	1	2	5	5	13	39
5月	7	6	2	4	19	4	—	8	15	27	46
6月	12	6	5	19	42	8	5	4	12	29	71
7月	5	3	3	10	21	2	3	9	25	39	60
8月	12	—	—	12	24	4	2	5	8	19	43
9月	14	8	8	25	55	3	1	6	4	14	69
10月	8	2	2	24	36	1	—	7	11	19	55
11月	5	—	1	5	11	5	1	8	5	19	30
12月	5	—	4	1	10	19	3	3	9	34	44
合計	90	48	52	147	337	60	22	72	116	270	607

(注) その他には商業、工業、災害、事業所、学事関係などが多い。



(統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

〔三白〕 昭和27、28年のいわゆる消費景気の波に乗って、砂糖、セメント、肥料、製紙、パルプ業界が相変わらず好収益を誇った。それらはみな製品が白いので四白景気といわれたが、その後製紙、パルプ業が伸び悩みとなつたので、残りを三白といっている。

〔資産再評価〕 企業の経理を堅実にし、適正な減価

償却を行つて資産の食いつぶしを防ぐため、固定資産の帳簿価格を時価で評価し直すこと。

〔J I S〕 Japanese Industrial Standardの略で、日本工業規格のことである。昭和24年7月実施の工業標準化法に基き、日本標準調査会が調査、審議して通産大臣が制定するものである。

◆全国珠算競技大会参加の 県代表は橋本さんに決る◆

県ではきたる10月14日に東京都で開催予定の第7回統計大会の付帯行事として行われる珠算競技大会参加の県代表選考会を行い、常陸太田市役所統計係の橋本夕恵子さん(19才)が見事栄冠を獲得し、晴れの全国大会に出場することになった。昨年那珂湊市役所の大須賀君が全国大会で第三位に入賞したが、ぜひとも本年は優勝の月桂冠を射止められることを祈つてやまない。なお橋本さんは常陸太田市の出身で太田二高を昨年卒業され、市役所に就職したもので珠算はすでに一級の腕前を持っている明朗なお嬢さんである。

編 集 室

◎二百十日も、二十日も平穏に過ぎて、今年の米はひでの被害にもめげず、平年作を約一割程度上回るものと予想される。すなわち、本県でも水稻 216万石、陸稲15万石程度の収穫高が見込まれ、『豊作は二年つづかず』という従来のジンクスをくつがえすことはほぼ確実である。表紙の写真は黄金の穂波の中に立つ素朴な農婦の姿である。

◎プロ野球もいよいよシーズンの終幕を控え、セリグー6チーム、パリーグ8チームが最後のしのぎを削っている。各チームとも200日の間130~154試合を強行しなければならないのだから大変である。その間には雨天や休みの日も相当あるために、各選手の心身の疲労は予想以上のことであろう。彼等の人気ある生活は一見非常にハデのように見えるけれども、その裏の摂生と鍛練の苦労は想像以上だそうである。何事も世の中には苦勞が付物である。黙々として試合に備えて精進をつづける人たちには深く敬意を表する。中には途中でその苦勞と束縛に耐え切れず、止めたものや脱線した人たちも数え切れないという。私たちの関係する統計事務も、花々しい行政施策の縁の下の力持的存在であるといつても過言ではない。地方には、10年も20年もの間調査統計事業の第一線に活躍されている人たちが少くないようである。私たち戦後派は、心から敬意と今後の御健闘を祈つてやまない。統計協会などもこのような功労者に対し、広く一人でも多く顕彰する必要があると思う。

統 計 だ よ り

- ★ 8月29日 三支庁総務課長会議を統計館で開催。
- ★ 9月10日 全国統計大会付帯行事として行われる珠算競技大会参加の県代表選考会を第三委員会室で開催。